★神戸の催し物ご案内 3月

〈音楽〉

★クールファイブ
6日（土）①2時 ②6時 神戸国際会館 前売S・二〇〇〇円 A・一六〇〇円 B・一二〇〇円

★ニーノ・ロータ

ロメオとジュリエット

10日（水）6時半 神戸文化大ホール 民音・二七〇〇円
演奏／新日本フィルハーモニー交響楽団

★レオポルド・フェデリコ楽団
12日（金）6時半 神戸国際会館 民音・一五〇〇円

★ピーターネロ

ピーターネロ

18日（木）6時45分 神戸国際会館 S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円

★神戸放送児童合唱団「立川清登と歌おう」
19日（金）6時半 神戸国際会館 一二〇〇円

★赤松愛
21日（日）1時 神戸国際会館 一五〇〇円

★アグネス・チャン
22日（月）①2時 ②6時 神戸文化大ホール 前売A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円 C・一二〇〇円

★チューリップ
23日（火）2時 姫路文化センター S・二〇〇〇円 A・一五〇〇円 B・一〇〇〇円

★なつかしのメロディ
23日（火）6時半 神戸国際会館 民音・一六〇〇円
出演／霧島昇・淡谷のり子・三浦洸一・並木路子・藤島恒夫

★マル・ウォルドロン
24日（水）6時半 芦屋ルナ音楽友の会 S・二〇〇〇円 A・一五〇〇円

★ラドゥ・ルプーピアノリサイタル
25日（木）7時 神戸国際会館 民音／A・二〇〇〇円 B・一六〇〇円

★スクリーン&ポピュラーミュージックコンサート
25日（木）6時半 神戸文化中ホール A・一五〇〇円 B・一三〇〇円

★森進一
26日（金）①2時 ②6時 神戸文化大ホール S・四五〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円

★市民コンサート（フォークソング）
27日（土）6時 神戸文化小ホール 無料

★荒井由美——ルージュの伝言
29日（月）6時神戸文化大ホール A・一五〇〇円 B・一二〇〇円

〈演劇〉

★文学座「夢 桃中軒牛右衛門の」

北村和夫

太地喜和子

5日（金）8日（月）10日（水）6時15分 6日（土）①1時半 ②6時15分 7日（日）1時半 神戸文化中ホール 労演・一五〇〇円

★演劇「わが青春のフローレンス」
11日（木）12日（金）6時半 13日（土）2時半より三回上映 神戸文化小ホール 四〇〇円

★バリコレクション76
15日（月）①2時 ②6時半 神戸国際会館 S・五〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円 演出／ジャン・ポール・ブルヴィエール 振付／アリン・メイヤーロー 司会／岡田真澄

★東西紅白浪曲名人大会
17日（水）10時半 神戸国際会館 五〇〇円

★初代・春団治名作撰

桂 春団治

19日（金）6時半 神戸国際会館 民音・八〇〇円
出演／三代目・桂春団治ほか

★東西浪曲名人大会
25日（木）11時 神戸国際会館 前売・二五〇〇円 当日・三〇〇〇円

〈その他〉

★市民映画劇場「フランダースの犬」「グレンダイザー」ほか
27日（土）①10時 ②1時半 神戸国際会館 一四〇〇円
作／宮本研 演出／木村光一
出演／北村和夫・菅野忠彦・太地喜和子ほか

★関西学院大学人形劇団デク
17日（水）6時半 神戸文化小ホール 三〇〇円

★春休み子供まつり（劇と映画）
「グレンダイザー」ほか

★なつかしのメロディ
23日（火）6時半 神戸国際会館 民音・一六〇〇円
出演／霧島昇・淡谷のり子・三浦洸一・並木路子・藤島恒夫

★マル・ウォルドロン
24日（水）6時半 芦屋ルナ音楽友の会 S・二〇〇〇円 A・一五〇〇円

★ラドゥ・ルプーピアノリサイタル
25日（木）7時 神戸国際会館 民音／A・二〇〇〇円 B・一六〇〇円

★スクリーン&ポピュラーミュージックコンサート
25日（木）6時半 神戸文化中ホール A・一五〇〇円 B・一三〇〇円

★森進一
26日（金）①2時 ②6時 神戸文化大ホール S・四五〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円

★市民コンサート（フォークソング）
27日（土）6時 神戸文化小ホール 無料

★荒井由美——ルージュの伝言
29日（月）6時神戸文化大ホール A・一五〇〇円 B・一二〇〇円

〈演劇〉

★文学座「夢 桃中軒牛右衛門の」

北村和夫

太地喜和子

5日（金）8日（月）10日（水）6時15分 6日（土）①1時半 ②6時15分 7日（日）1時半 神戸文化中ホール 労演・一五〇〇円

★演劇「わが青春のフローレンス」
11日（木）12日（金）6時半 13日（土）2時半より三回上映 神戸文化小ホール 四〇〇円

★バリコレクション76
15日（月）①2時 ②6時半 神戸国際会館 S・五〇〇〇円 A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円 演出／ジャン・ポール・ブルヴィエール 振付／アリン・メイヤーロー 司会／岡田真澄

★東西紅白浪曲名人大会
17日（水）10時半 神戸国際会館 五〇〇円

★初代・春団治名作撰

桂 春団治

19日（金）6時半 神戸国際会館 民音・八〇〇円
出演／三代目・桂春団治ほか

★東西浪曲名人大会
25日（木）11時 神戸国際会館 前売・二五〇〇円 当日・三〇〇〇円

●愛読者優待席

神戸っ子読者に左記のステージを割引優待致します。

★ピーター・ネロ
3月18日（木）6時45分 国際会館 初来日。軽い洒落たタッチ、躍動するリズム、美しくからみ合う新しいタイプのピアノが楽しめる。S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円 LS・四五〇〇円をそれぞれ一割引。

★ナンシー・ウィルソン

4月8日（木）6時半 文化ホール これほど美しい歌手、人間的魅力をもった歌手は例をみないといわれるナンシーの生のステージを。S・二五〇〇円 A・二〇〇〇円 B・一五〇〇円 LS・四五〇〇円をそれぞれ一割引。

★カラベリと きらめくストリングス
4月14日（水）7時 国際会館 ヨーロッパの繊細なセンスとともに現代のポップス感覚。独自の華麗なサウンドの世界。S・三〇〇〇円 A・二五〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円 LS・五五〇〇円をそれぞれ一割引。

ご希望の方は電話かハガキで神戸っ子編集室・優待係〈川崎〉まで

人間模様

人間模様〈第二回〉

中内功

重森守〈元朝日新聞神戸支局長〉

題字・望月美佐

ダイエー社長

神戸が生んだ「現代の英雄」のひとりである。

従って、やたらに忙しい。

東奔西走、神出鬼没。

上京してメーカーや役所に顔を出したかと思うと、夕方には山陽道の店の店頭へ。その夜は三宮で客と杯をかわしてる、といった具合——。

何のために、そんなに働くんですか。

「うーん、ま、そこに山があるから登る。仕事があるから、やる。多くの人が〝中内は、やるだろう〟とネ、期待している。それに、そむくわけにはいかん。こりゃもう宿命ですわな」

趣味は？と聞いたら

「仕事。それしかないもん」

と即座に答える人である。

「店でレジの音を聞くのが何よりの生きがい」と口ぐせのようにいっていた時期もある。飲み、打ち、プレーをたのしむばかりの当方としては、最もニガ手の部類に入る人種と申すべきか。

いったい、いつ休むんですか。

「いや、毎日が休みみたいなもんで……」

？？？　まさか。

「動いておれば、たのしいスからね。ま、しいていえば、数字のない話しているときかな、レクリエーションらしいのは……」

それでも一昨年、機構改革をやった。将来計画を練る部門と日常業務とを分離して、社長権限を大幅に委譲する。つまり〝中内商店〟からの脱皮がねらいだと解説がついた。

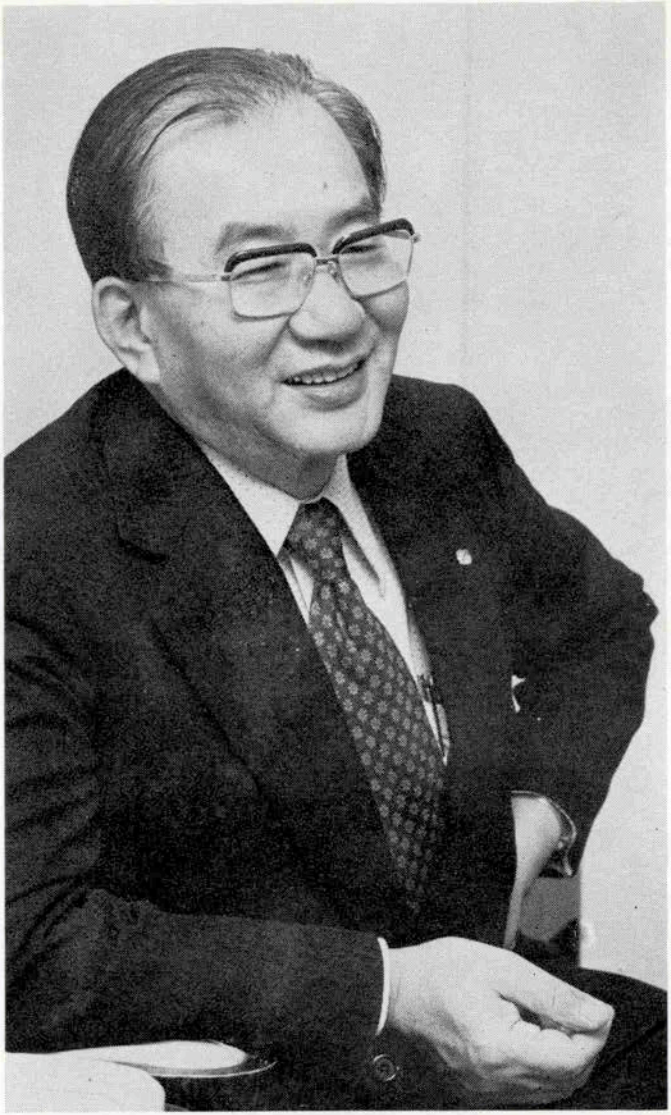
ところが現実は、あんまり変わっていないらしい。つまり、相変わらず中内ワンマン体制。地方都市の店にも以前と同じようにこまめにカオを出しておられるようである。

アナタは、小売業としての売上高日本一を記録し、いまや従業員二万六千人を擁する会社の社長ですゾ。もうちっとドッカリおさまっていたらどうです。

「いやネ、小売業ちゅうのは、オヤジが店頭に立ってこの目で客の変化をつかまえ、ニーズ（需要）を先取りしていかにゃいかんとネ。まァ、コンピューターに出るころは、もう遅いんですわなァ」

それじゃ、各店の店長を信用しとらんことになりゃしませんか。

「いや、店長は店長でやる。しかし、社長もまた出ていく。見にいくのやなくてネ、見られに行くんですワ。客を大事にせにゃいかん、お店を大切に育てないかん、そういう社長の姿勢を従業員に見てもらう。会社がどんなに大きくなっても、原点はそこにあるとネ」



こういうのを、ふつう世間では〝貧乏性〟という。

だけど、たった二十年で今日の富と栄光を築き上げたご本尊のお言葉となれば話は別。なるほど、そんなもんかなぁ、と思ってしまう。貧乏なのは、コッチのこっちゃ。

新築まもないダイエー本部十七階の社長応接室で、悠然と微笑をたたえているこの〝怪物〟が、終戦後三宮のヤミ市かいわいで薬の安売り屋をやってたなんていっても、もはや誰も信用してくれへんのと違うやろか。

で、どこまでかせいだら気がすむのか。たしか四、五年前は〝年間売り上げ一兆円〟の達成が生きがいだとおっしゃっていた……。

「いや、もう一兆円は確実に射程内に入ってますな。放っておいても来年は八千数百億円、その次の年は一兆円ということでしょうネ。ちょうど創業二十年になりますしネ」

じゃ、また新しくスローガンでも掲げてみますか。

「まァ、売上げ三兆円、百億ドル企業の実現てことになると思うけど、そんなことをネ、白昼かかげたりするのは、おとなげないしなァ。どうもシラケますわなァ」

ちょっとテレたような微苦笑が浮かんで消えた。

しかし、その苦笑の奥には、万更でもない、いや、むしろ得意気な自信がギラギラ渦巻いている。ちっともシラケていない自信のいろが——。

じゃ、目下のところ、社長の生きがいって何ですかねえ。

「……」

はじめて、つまった。言葉がとだえた。

「……うーむ。そう改まって聞かれると……ねえ。ま、毎日、仕事をしておるということかなァ」

また仕事ですか。イヤになるなァ。ほかに何かやらんのですか。

「まぁネ、少しは人にひっぱられて、マージャンとかゴルフやりますがねぇ」

そんなもん、ちっとも面白くないヨ、と顔に書いてある。ホンマに面白うない人だ。

「いや、マージャン、昔は強かったんですよ。本場の神戸で、中国人相手にやっとったんですからなぁ」

はじめて、あのヤミ市時代のにおいが漂う話になった。

神戸育ち。生田・東川崎町の造船所に近い薬屋さんの長男である。

「神戸の西洋的合理主義に大いに影響を受けてますな」

——だから、社長応接室の湯のみは、なんと紙コップ。

「ま、神戸で生まれ育った全国的企業ちゅうのはウチぐらいのもんですからナ、プロ野球の広島カープのように、神戸の人はもっと声援してほしいねェ」——そうそう。山口組だけじゃ、神戸の名が泣きますゾ。

「大阪はビジネスの街。神戸、三宮にはボクの生活がありますわナ。だから、いつも神戸の宣伝をしようと心がけとるんですよ」——今夜も来客を三宮へ案内するんだそうである。コレ、「神戸っ子」向けの発言じゃないだろうな。

「商売の方もですな、ま、神戸で受けたことは必ず日本中で受ける。いわばダイエーの三宮店は一つのモデル、標準であると、そういう考えで当たっているわけですよ」——結構、結構。神戸財界でも、中内さんの登場を待ちうける気運が強まりつつあるんですって。

なにしろ、小学生時代、近くの寺や水源池へセミとりに行った記憶が、いまも強く刻みついているらしい。

そういえば去年、出版された神戸・祥福寺の山田無文老師との対談でも少年のころの思い出を語っておられるのである。

「ええ、ええ。ま、郷愁ですわナ」

たしか、その対談で社長は「忙しくて、父の死に目にも会えなかった。それ以来、仕事をガムシャラにやることに疑問を抱いた」と語っている。

アレ、本心ですか。

「そうス。ま、父の死で無常をネ、感じたわけですわナ」

信じられないなァ、この人が無常やなんて……。

「だって、そうでしょ。なんぼバリバリ仕事をしていてもですよ、死んでしまえば、新聞の死亡記事に三行かまァ、十行ぐらい出るだけですわナ。それも一日でて、それでオシマイですよ」

仮りにそうだとしても、そんなことで疑問を抱くとは……

「ええ。だからといって酒のんで寝ていても心はなごまない、ネ。取引先やお客の期待から逃げおおせるもんじゃない。」

ちゃんと、さとっていらっしゃる。

「裏を返せば、この世の中、無常だからこそ仕事やらんと仕様がないってことですわナ」

マイッタ、マイッタ。それじゃ、いま一番ほしいものは何でしょうか。

「(即座に)人材ですな」

つまり、創業の精神を受けついでやってやろうという人物。これは、なんぼでもほしいと強調する。

中内ワンマン、世にいうところの後継者難で相当アタマを痛めておられる、とみた。

「うーむ、ねえ。ボクが死んだら世間が放っておかんだろうし、後継者なんか決めておかんでも誰か出てくるとは思うけど、ま、これだけの屋台骨、ひとりでは支えきれんやろなァ」

強烈な自信、身震いするような孤独感——その二つが背中あわせに存在しているんじゃなかろうか、このワンマンの胸中に。

「そりや、アナタ。私も弱い人間ですよ、ねッ。ここまで来れたのも、時の流れにうまく乗れたからこそ、ですわナ」

あとは、自分にいい聞かせる口調になった。

「いよいよ正念場や。一兆円企業を支えて大見得を切れるかどうか、経営者の真価を問われるのは、これからやなア」

「挑戦」のスローガンのもと、松下電器など大手メーカーにかみついたりするような戦闘的言動は、もうやめたそうである。

「相手に恐怖感を与えて、マイナス面ばっかりでますわナ。ま、表現の方法を変えていくということで……」

ところで社長、あなたご自身、経営者としては何点ぐらいと思いますか。

「ま、七十点というところですかナ」

なぜ、三十点ひいたんです。

「仕事はよくやるけど、人間としての幅がない、と自分でも痛感してますわナ。他人に与える印象、説得力に欠けるものあり、ですな」

ムムッ、なんという自己洞察——。

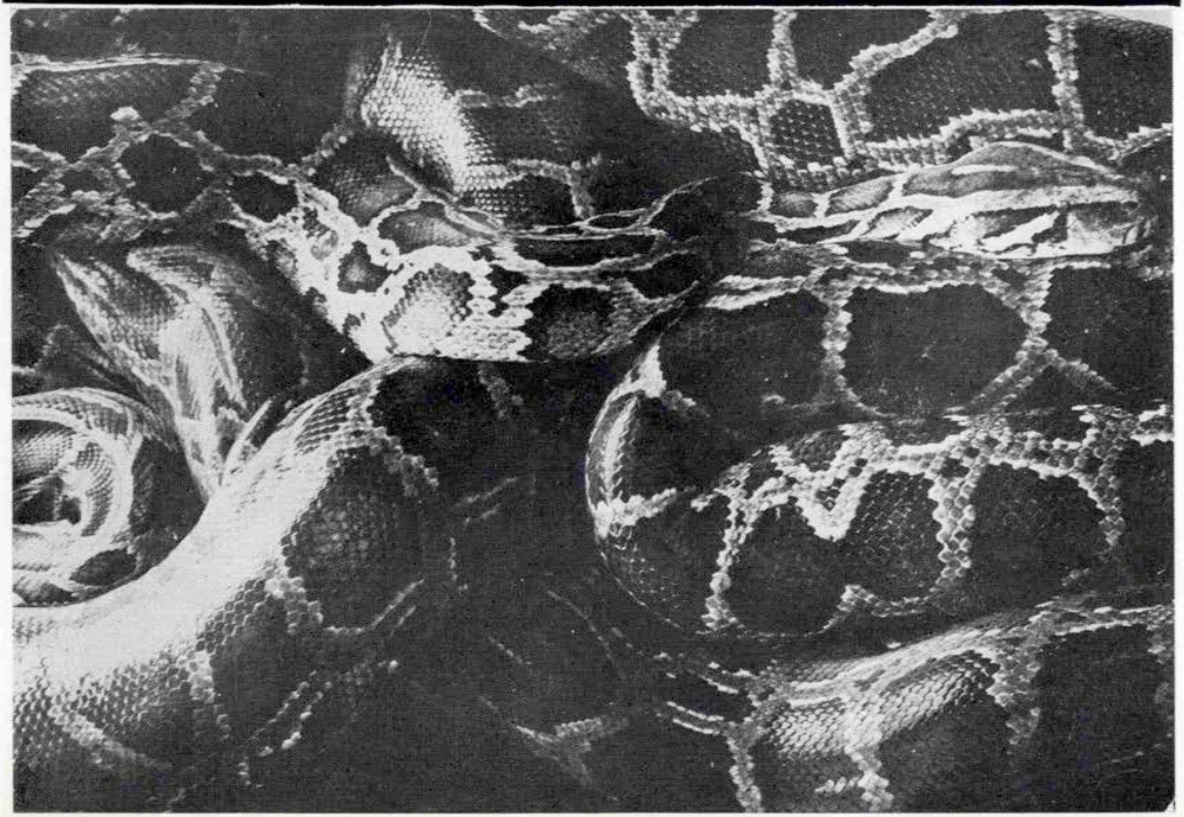
「まァ、そう早く大成してもねェ。そのうち余裕も出てくるやろし、人間の年輪とともに一点ずつふやしていって、引退のときに百点にしたいですな」

そうすると、あと三十年は君臨するおつもりなのだ。中内王国に幸あれ。

〈カメラ／米田　定蔵〉

動物園飼育日記 —117— 亀井一成

ないしょ話シリーズ〈39〉〝爬虫類ショウ〟とぼくの失敗



ゾウにラッパ吹きや逆立ちを教え、チンパンジーやオランウータンに竹馬や自転車のりをやらせていた動物園設立間もない頃（昭和25）。同じことやったら、ひとつニシキヘビかワニを抱いて驚ろかせてやれ！　と、かつて血気さかんな新人の頃、私は動物ショウになんとか爬虫類を加えようと考えたことがあった。

それにはまず、日頃の世話から彼等に馴れておかなくてはと早速、ゾウやチンパンジーの調教法おしゃべり飼育法を実行した。つまり大げさに足音をさせ、同じ服装で、何時も同じ扉から出入してやり、愛称を呼びながら声をかけながら、眼と顔と手足というふうに全身で気心を表わし何時も喋ってやるという飼育法をやりはじめた。

だが、半年すぎてもどうも爬虫類となるとその反応が思わしくない。ワニはある程度個人的な区別をするまでになってくれたものの、ヘビとなるといっこうにこちらのお喋べりに反応を示してくれない。無表情に冷たくおさまったままのニシキヘビに根気を断たれ〝やっぱりヘビはあかん！〟と気が滅入ったことがいま思いだされる。

〔ワニは耳。ヘビは眼〕

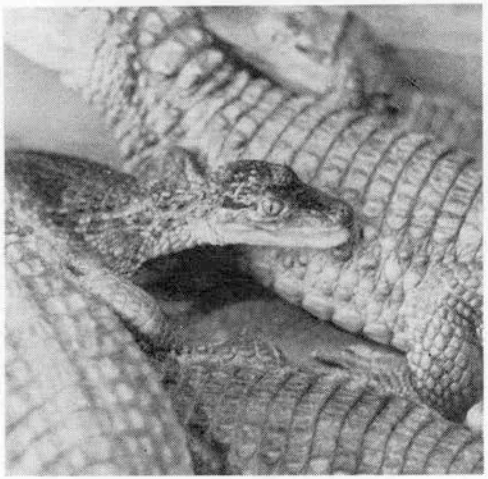
ワニには中耳と鼓膜もあってかなり鋭い聴覚がある。そのうえ視力もあるので足音や言葉の呼びかけ、さらにはエサ狭みの音、バケツの音にも反応を示し、お喋べり飼育もある程度は有効である。だがヘビには耳口も鼓膜もないので音の感知はワニにかなり劣る。しかし視力は鋭どく色覚もあり、動く物に対しては音もなく身がまえ、にじりよる攻撃法を見せる。

またヘビは特殊な二双の長い舌をもっているが、その舌を繰り返し突き出しながら、空中に運ばれてきた臭いの分子をその舌の先にくっつけ、ひっこめ、舌の基部にあるヤコブソン器管によって、嗅いや味さえも感知していること。など当時の私こと、恥ずかしながら知り得なかったのである。

そのためワニには聴覚と視覚とで誘いをかけ、ヘビには主に視覚で誘導しながらエサを与えることが飼育要点であることなど、体験的に修得するまでにかなりの時間を要したことも事実だった。

そして結局そうこうするうち、たとえ思いのまま部屋の中では扱えても、野外劇場にまで連れだすまでには至らず〝爬虫類ショウ〟は皆様にお目にかからないまま、はっきりいえばボクの失敗に終った。だが、いまもって絶対不可能だとは思っていないことも記しておこう。くやしいから……。

ところで失敗といえば、大きな声ではいえないけれど、再び重なるもので、若いボクをうろたえさせる大変な事件が起った。



ワニには中耳と鼓膜もあって鋭い聴覚がある

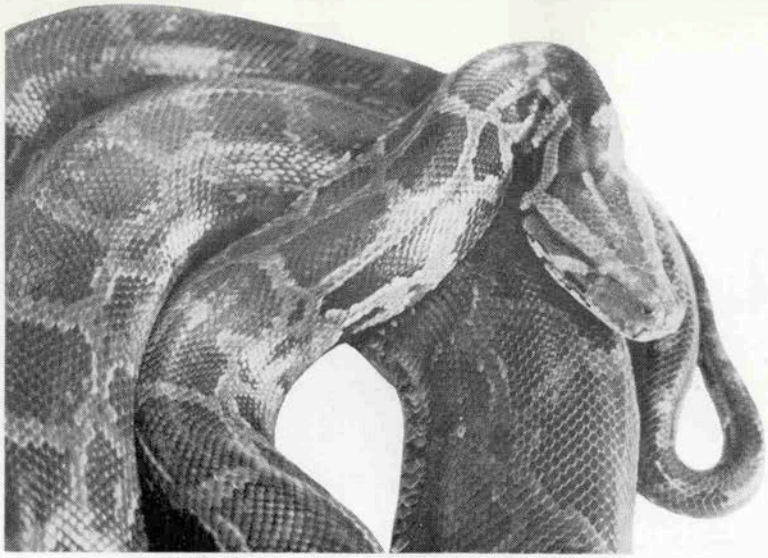
アミメニシキヘビ二頭とインドニシキヘビ三頭を飼育中、そこへ小さなニシキヘビが一頭新着した。しかも業者からではなく外国船員からの寄贈だということは分ったが、あとは何も伝言はなかった。それがいけなかったのである。

ヘビの大きさは一・三㍍と小さかったが太さはかなりあって、確かにニシキヘビの模様をまとっていた。なる

ほどこれはまだ幼獣にちがいない。とりあえず箱オリの床に砂と落葉を敷きつめ上からすっぽり布切れをかぶせ数日は落着かすためのぞかないことにした。

ところが一週目のある日、ワニから大トカゲ、ニシキヘビと順番にエサを与え水替え作業を終え、その新着ヘビをのぞいた私は慌てた。確かに元気だったはずの、そのヘビが見えない。行方不明。〝えらいことした！　逃がしてしもうた〟それでもと落葉の床をかきまぜた私はなおさらおどろいたのである。ヘビは長いものにきまっている。それなのに、逃げてはいなかったものの、死んだのか、からだをまるめ、まるでボールのようになって落葉にうずまるようにころがっていたのだ。

おそるおそる、手で触れても長くはならない丸くかたくなったまま、ほんとにころがるぐらい、〝やっぱり死んでいる！〟えらいことになってしもうた。「これやったら、無理してもマウスの二～三匹を差餌しておくべきだった」との反省と早速上司への報告をと事務室に足をはこんだが閉園後のことで明朝まで待つことにあいなった。



ヘビは耳口も鼓膜もなく音の感知は劣るが視力は鋭く、色覚もある

当時、動物園前の銭湯にまで作業のあと、でかけたものだが、その湯船で、だがまてよ、それにしてもおかしい。あれだけ栄養状態も光沢もあるヘビが急死するとはどうしても考えられない。ものは試しのたとえどおりあきらめず私はもう一度マウス二匹をそのヘビの中へ与えて帰ることにした。

〝あ、マウス二匹ともおれへん！〟これまたどうオリの中かきまぜようが見当らない。しかもヘビは丸くなっている。その翌朝またしても、私のこの眼に入ったのは死んだようなヘビの姿だけだった。

だが私の執念の眼はこのときひとつの喰い違いを見破ったことも、この稿で早く記したくてたまらない。それは、昨夜マウス投入時、もしやと丸まったヘビの縞模様を仔細に記憶して帰ったが、どう見ても昨夜とは違った丸まり方に私は気づいたのである。

ボールニシキヘビ（BALL PYTHON 西アフリカ）一～一・五㍍小形のニシキヘビで草原にすみ、危険なとき丸くボール状になる。エサは小さなネズミを捕食している。動物図鑑にこう記されている。

若輩ボクのおそまつ二題……。

〈王子動物園学芸員／写真も〉

幼児歯科
小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

（初診日）　火曜日　午前９時30分
　　金曜日　午後１時30分
　　（木曜日は休診）

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル６階
〒650 生田区加納町５丁目39
TEL（078)331—6302～3

こんにちは赤ちゃん

大塚恵美子ちゃん／西宮市甑岩町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科

芦屋市大枡町１番18号
国道芦屋川電停東50米（明治生命南）
☎ 芦屋（0797）31—1234 代表

ご入学　ご卒園の

お祝いは学習シリーズ
その他数多くの商品の
中からお選びください

おもちゃの
カメヤ

三宮方面でのお買物は…
きんちか店　ファミリータウン　☎391−4045
三　宮　店　センタープラザ1階　☎331−4969
元町方面でのお買物は…
元　町　店　元町通3丁目山側　☎331−0090
パンプウ店　元町通1丁目不二家前　☎391−0768
神戸駅前方面でのお買物は…
サンこうべ店　神戸駅前地下街　☎351−6002

マッハ 185コース

●ハワイ・グアム●東南アジア●インド・中近東
●ヨーロッパ●ソ連●アメリカ●カナダ
●中南米●南太平洋●オセアニア

気軽な旅してみませんか

旅はくらしのリズムのアクセントです。いち早く
全185コースを発表するマッハからあなたの旅を。

アメリカ建国200年コース

ハッピー・バースディアメリカ10日

大人 488,000円　小人 440,000円

東京→ニューヨーク→ボストン→ワシントン→ニューポートニーズ
→ウイリーアムズバーグ→リッチモンド→シカゴ→ロスアンゼルス
→東京

6月30日(水)出発　全行程3食つき　建国200年祭ハイライト

独立の地を訪ねるアメリカ10日

大人 488,000円　小人 440,000円

7月23日出発　7月30日出発　8月6日出発

●只今予約受付中！パンフレットをどうぞ。

お問合せ・お申込みは——神戸中央営業所
日本旅行
生田区元町1丁目48
☎ 321−4531

■話題のひろば

赤根和生

＜蘇生のモニュメント＞

「モンドリアン論集」出版記念会ひらく

中央・花束の前が赤根さん夫妻、祝辞をのべるのは山本兵庫県文化局長

この2月10日（火）午後6時よりレストランバーグで「赤根和生さんのモンドリアン論集の〈出版〉を祝う会」が盛大に開かれた。この出版記念会、総勢276名が世話人という変ったシステム、当然のことながら満員の盛況。

まず、兵庫県知事に変って山本文化局長と市長代理に内田収入役が祝辞を披露、ひき続き、オランダ総領事スタッド・マン氏がモンドリアンを詳細に紹介し「いまではコマーシャル関係の交流が強かったがこれからの日蘭関係は文化の交流を大切にしたい」といった挨拶。ドイツ文化センター館長のDr・ブラント氏は「日本に着任し赤根和生氏に芸術界のガイドをしていただいた。日独の文化交流のお役に立ちたい」と語った。元ドイツ総領事のガリンスキーさんは赤根さんがドイツのデュッセルドルフで入院中、たまたま、ドイツに休暇帰国していて、2度も病院を見舞った人で、その思いやりの深い人間性に赤根さんは深く感動、赤根さんはガリンスキーさんの肩を抱いて紹介、また、赤根さんの同窓、荻山二郎氏（東京外語・元英文毎日）は「英文毎日時代、赤根さんの英文美術評ペンネーム天邪鬼の流麗な英文は社内でも最高の評価」と赤根さんの語学力の素晴らしさを紹介、乾由明氏は「こんな大仕事をいつの間にこなされたのか、モンドリアンの哲学的芸術論はとくに難解なので片手間では出来ません」と挨拶をした。滝口修造（詩人・美術評論家）の祝電「モンドリアンツイニココニイタル」ツクルコト、イキルコト、トモニナガシ」アイワ・アイヲミツケタリ」ココロカラオヨロコビヲ」タキグチ。このほか世界各地から祝電が届いている。パリから松谷武判、ヴァンホーテン夫妻。ドイツから植松奎二、カワグチシズコ、シカタサチオ、下谷千尋。ミラノから河口龍夫、中井克己といった賑やかさ。出席の筈の中原佑介氏から「カゼデイケヌ」ミスターモンドリアンノマスマスノゴカツヤクヲイノル」トーキョーヨリカンパイ」ナカハラ会場は、赤根さんの知友がつめかけ超満員だった。

よき隣人のいる社会に

檜前敏彦（ひのくまとしひこ）氏に聞く

〈花園大学教授〉

橋本　明
〈社団法人「家庭養護促進協会」事務局長〉

檜前敏彦氏

一昨年の暮に岡山にいる娘夫婦が七カ月ばかりの赤ん坊をつれて正月をしに神戸の私の家へ来たところ、子どもが30日の朝八度何分かの熱を出したんです。12月30日といえば、この頃から正月の3日頃まではおそらく医師会の指令で日本中のお医者さんは休みです。おまけに私の家にはふだん小さな子どもがなく、小児科のお医者さんとは何の近づきもありません。そこである小児科医に電話したら果せるかな「もう休みです」ガチャン！と切られてしまいました。困ってしまって近所の小さい方がいる家庭の若い奥さんに相談してみたらさっそくかかりつけの先生の電話番号を教えてくださり、急場の時の熱さましのお薬もくださった。その先生は自宅と診療所とが別になっているので自宅へ電話すると、ばあやさんらしい人が電話に出られてすぐに診療所の先生へ連絡をとってくださった。そこで赤ん坊をかかえた娘夫婦と一緒に私も診療所へ行ってみると、先生はちゃんと暖房を入れて部屋を暖かくして待っていて、ていねいに看て自分で薬を調合し、いろいろ親切にアドバイスしてくださった。おかげで孫は治り、私達もホッとしたわけです。

このできごとで私が感じたのは、日本は国民皆保険ですべての人に医療を保障するという公的な医療システムは整っており、その点では一応先進国並ですが、しかし私の孫のような状況で途方にくれたときにはその医療システムはパッとニードに対応してはくれない。国や県・市などは制度をつくり、設備を整備して対策を整えるわけですが、そういう制度や設備がすぐニードに応じて動いてくれるかどうかはわからない。孫の場合、私の実感として私たちを助けてくれたのは完備した日本の医療制度ではなくて、親切な近所の奥さん、電話口に出たばあやさん、そして休みなのに全診療室を暖めて待っていて看てくださったお医者さん、それらの人に助けられたのです。

ところで憲法には、すべての国民は幸福追求の権利があり、それを国の政治の働きで最大限に尊重すると書い

てあります。しかし、私達は何も、さあ今から幸福を追求しようと思って追求しているわけではなく、私達の毎日の暮しそのものが幸福追求のプロセスなのです。今お話したわが家の赤ん坊のことなどは日常茶飯事で、別にわれわれの幸福とか何とかというおおげさなことではないかもしれませんが、実は日常生活の幸福とか不幸とかは大なり小なりこのようなことの積み重ねなんですね。

こういう日常的な私達の欲求が自然に正しく充足されるという状況が日本の社会の中に普遍化した時に日本の国民は全体として幸福になって社会の雰囲気も何となくポカポカし、みんながなごやかな顔をした社会になる。それが社会福祉制度の最終の目的であるはずです。

ところが、最近の権利闘争とか住民運動というのは個人の責任と公の責任という二つの次元だけでものを言っているようで、しかもその責任とは何かといえば、システムを作ったり制度を作ったり、そのやりかたが不足、不十分であることへの責任追求というやりとりです。しかし人間の幸福が保障されるためには家族や肉親の助け合い、近隣社会のポカポカした暖かい雰囲気、社会的システムに関係するそれぞれの職業人の熱意とか専門的能力など、この全体がやはり人間の最終的な幸福というものにつながっていくだろうと思う。公的な責任によってたくさんのお金をかけて作り、運営しているいろいろな制度とか施設とか行政機関というものがあるから、あること自体によって人間の幸福が保障されるかというとけっしてそうではないのであって、そこには常に人間がからんでおり、人間が決め手になるのです。今お話しした私自身の経験でいえば、電話した時に拒否したAという医師、それをこころよく受け入れて診療室の暖房まで入れて待っていてくれたBという医師。同じ医療システムの中で、Aという対応の仕方もあるし、Bという対応の仕方もある。それはお医者さんだけではありません。施設の保母さんだってそうだし、児童指導員だってそうだし、看護婦さんだってそうだし、それからそういう専門的な仕事をする人だけではなくて、施設の調理場のおばさん、バスの運転手さん、用務員さんなど公的責任というシステムの中で働く人々の自由な態度や行動の選択、その全体の積み重なりが、ある幸福感、ある不幸感、阻害感を生むということになるというべきでしょう。

数年前、英国でボランティア問題について調査したエーヴス委員会の報告書に次のような一節があります。

『われわれはボランティア活動と、友人としてあるいは隣人として行なわれている数えきれないほどの善意の行ないとはほとんど区別しがたいものであることをよく知っている。その善意の人たちは一人一人の個人の何等かのニードに気づいて完全に非公式、非組織的な方法でその隣人に応えている。これらの仕事は親族や親切な隣人が引き受けている。……われわれはこのようなニードに対する自発的な反応こそ、イギリス社会の長所の一つであると信じている。よき隣人とボランティアの間には、はっきりした境界はない』

私が日本の現在の風潮に対して申し上げたいことは、よきボランティアになることは奨励されるけれども、よき隣人になるという空気が日本の社会には薄いということです。見ず知らずの人には親切にしても、それが友人や隣近所の人のことになるとあまり親切心や思いやりが浮かんでこないのはどういうわけでしょうか。自分の家族や親族や、友人とか隣近所の人に無関心であったり冷淡である人がどうして本当に誰かの権利のためにとか、誰かの幸せのためにということができるでしょう。

隣人の困難、苦痛、必要に対して〝完全に非公式、非組織的な方法で応える〟というエーヴス委員会報告の一節の精神的風土が原点にあって、それをみんなが大切にし、もろもろの社会的システム（機関、施設、制度、サービス）もこれを基盤として構築されるときに、ほんとうの福祉社会は実現されていくと思います。

★このお話は社団法人「あさみどりの会」の機関誌「あさみどり第34号」に掲載された先生のお話を抜粋してまとめさせていただきました。

■ファッションレポート Vol. 2

最近感じたコトや出会ったコトです…

井本ちず子
〈オールスタイル倒えるみグループ〉

仕事に対する努力が、なるべく自然な関心や、興味から出きるようになりたいと思っています。

近頃になって感じるのだけれど、デザイナーって、特にわたし達のように企業の中で働く場合には、才能というより、むしろ努力の量が良い仕事をするための決め手じゃないかという気がします。

どれだけ歩いたかとか、どんな人と出会ったかとか、聞いた事や見た事や、その他、色々な意味でのキャリアが必要で、それをどれだけ自分のものとして消化して、自分の仕事が必要としている制約の中で、オリジナルに発揮できるかが大切な事だと思うのです。そして、何かを表現するために必要なものは「大切な、根本的なものを見る目」で、それは勿論、最初からあるものでなく養うものであって、そのためにキャリアや消化力が重要になってくると思うのです。つけ焼き刃の審美眼では、いまのように沢山ある情報や、スピーディな時の流れの中で、本当に眼をまわしてしまいそうです。

だから最近、同じ仕事をするある人が「今の仕事は表面的でやりがいがない。」と言っていたけど、ちょうどわたしは「イージーな気持ではやっていけないナ」と感じていた時だけに、とても悲しかった。表面的になるかならないかは、その人のやり方次第なのにと思って。

「仕事の濃度は、分野でなくって、やり方次第よ」と言いたかった。

どの分野にも（勿論わたし達の働く分野にも）本当の意味でのプロはいるし、その人達の才能や努力に対してただ自分の能力の水準で決めつけたような、そういう発言は、とても失礼だと思うのです。わたしは不器用で、それに中途半端なところがあるのでプロへの道は、まだ遠く、それでも、幸運にも出会うプロフェッショナルな人達に触発されながら、がんばっている最中なので、とても表面的だなんて考えられないし、表面的な仕事というものを、どの分野にも、考えつく事が出来ないのです。

もう一つの興味あるもの「おばあさん」について。おばあさんの存在感って、さすがだナァと思うのです。それも、モダンばあさんじゃなくて普通の田舎で、お昼に鈍行電車に乗った時なんかに出会う、大きなふろしきかかえてのんびり座っている感じの人。

若い頃、着物を着た時の感覚のままで、堂々と洋服を着ている。その型や色の配合が、とても新鮮です。

いいえ、それ以上に、服は何着ているかなんて全然感じさせなくて（当人もきっと全然興味がないでしょう）当人自身がそこにいると感じというか、生活感のある感じが、とってもいいナァと思います。

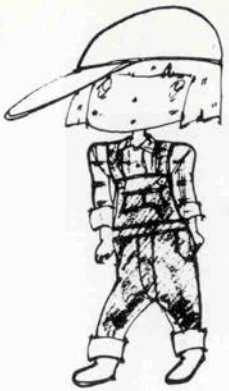
わたしも年齢と共に着実に年を重ねて、年相応に、色々な年月のきざまれた老人になりたいと思う。それに、そこまで年を取らないまでも、人自身が、その人の着ているものを超えている感じは、あこがれだし、目下のところの目標でもあるのです。例えばケンゾーを着ていてもケンゾー風でなく、自分自身の個性でこなしてしまうような「その人のムード」がある人はわたしが素敵だと

感じる人です。

すれ違った時にAnAnやNONNOにあんなスタイルがあったっけと思い出すのでなくって、もっと人間的な印象の残る人が興味のある人です。

ドロテビスやイッセイのドレスを見ていると、今までの様なおしきせのデザインと違う。とても開放された〝自由〟があって、ボディや気持で着こなす服という感じがします。着たら、歩幅も広くなって、背筋も伸びそうで、意志的に、自由に屈託なく、そして女っぽく生きている、現代的な大人の女性のイメージが浮びます。

服とのコミュニケーションは、とても楽しい遊びの一つです。新しい一枚のシャツは、色々なイマジネーションを生んでくれます。わたしがずーっとあこがれていて着たいのは、薄いローンの、花びらの様なワンピースだけれど、選んでしまうのは、何時もシンプルなシャツやセーター。経済的で、実用的で、要するに、わたしの生活に似合っているからです。



ところで、この間まで、三宮の地下道で子供の絵の展覧会をしていました。

一つの題があって、それについて子供が感じたコトを色々な絵に表現しています。性格が絵に表われるというけれど、本当に、きちょうめんに縁どりしたのや、画用紙から、はみ出しそうに元気なのや、色々ありました。

犬の顔も、太陽の型も、みんなそれぞれ違っていて、それで考えついたのだけれど、何か、単純な題を決めて色々な世代の、色々な人の絵を集めた展覧会なんて、楽しいんじゃないかしら。

わたしも時々絵を描くけれど、わたしの描く人は、ボンヤリと焦点の定まらない表情が似合うので、描く時、気持のどこかで、そういうつもりになってみる。そうすると割合うまくいくようです。

不思議なことに、例えば、うまくいかない事があった時なんかにイライラしながら描くと、何となくムクれた意地悪そうな顔つきの人が出来上ってギョッとします。

絵って、とても正直ですネ。

好きな画家は谷内六郎。素朴で暖かいふん囲気も勿論だけれど、今年の新潮社のカレンダーに描かれている「線香花火のおわり」の花火の火が小さい赤鬼になっているのや、「枯葉の影芝居」の落ちかけた枯葉の、壁に映った影がチャンバラごっこをしている……そういう発想が、優しくて好きです。

服とのコミュニケーション
はとても楽しい……と筆者

話は変わって、先日、久しぶりに会った人がいて、その人は、アウトサイダー的で、理解しにくい部分の多い人で、話す時は緊張して、わたしの知性？のすべてで、がんばってみるのだけれど、やはりよくわからなくてという人だったのですが、その日は、仕事の話をしていて急に、「ナナメに構えてガンバっている時は苦しかったけど、飛びこんでしまったら、ずーっとやりやすくなったよ。」と言って、その話はわたしにもわかるので「よかった」と思いました。

最近、私が感じたコトや出会ったコトの色々でした。

（カットも筆者）

●K.F.Sマンスリーサロン

<一般聴講歓迎>

3月10日<水>県民会館402号室

若林輝雄氏

午後6時30分より
「ミラノで感じてきたこと」
藤井和夫氏
<前ミラノ神戸市派遣情報員>
「イヴ・サンローランの
マーチャンダイジング
フォーメーションについて」
若林輝雄氏 <ファッション
プロデューサー>

4月14日<水>県民会館902号室

増田光吉氏

午後6時30分より
「未定」
三浦　保氏 <神戸新聞コミュニティーセンター>
「未定」
増田光吉氏
<甲南大学社会心理学教授>

5月12日<水>県民会館902号室

華房良輔氏

午後6時30分より

華房良輔氏

<一般に限り各講義料 ¥1,000 です>

●K.F.S新企画

郷土シリーズの旅

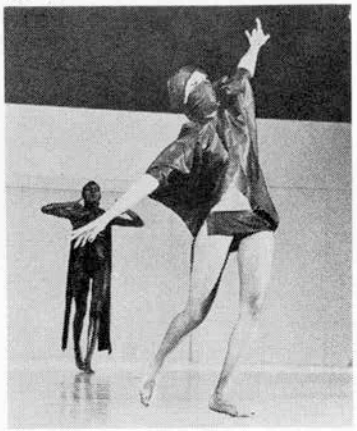
4月下旬に

西脇1泊旅行

日本のスイスといわれる綿産地播州織の西脇の町をたづねて、織もとの工場や、手すきの杉原紙やまた西脇のファッション産業たづさわる人々との交流会をもちたいという企画です。

●ショー観覧席

三宅一生のショーを観て



ショーにさきだってイレブンPMで一生はこういっていた。「登場するドレスの半分は実用に適するものではなく、このショーのすばらしい12人の黒人モデルの動きと音楽と光の中で私は衣裳を受もったにすぎません。」

雨の大阪府立体育館は満員の熱気でムンムンしていた。登場してきた一生のドレスは人間の衣裳の原点を思い出させるようにドレープ、ギャザー、フレアー、貫頭など基本的な技法が実に正確に高度なテクニックで節順にまとめられ、174cm以上あるといわれるモデルのダイナミックな動きによってその量感が極限にまで表現されていた。ピューロンという新しい布は、しなやかに軽く鮮やかな色彩をはなって黒い肌に効果的であった。

パリでも強く感じたことだが黒いモデルの何と美しく素朴でエネルギッシュなことか……。丸坊主のように短かくかりこんだりひっつめにした小さい頭、衣裳を着ている時の細いするどい線がトツプレスになりドレスをぬいだ時のてごたえのある肉体、体の底から湧出るリズムに舞台せましと踊りまわる彼女達をみていよいよブラックパワーの時代の足音と共に一生がこのショーの成功はすべて彼女達にありますといった言葉をあらためて思いおこさせた。

藤本ハルミ（デザイナー K.F.S会員）

★K.F.S.メンバーによるP.R.

室内を演出する
神戸装飾 株式会社
神戸市生田区中山手通2丁目64ノ4
三宮販売部 Phone (331) 0557

神戸もとまち
大丸
Phone 神戸 (078) 331—8121

ミセスのための婦人服
Vert ヴェール
伸和スタイル株式会社
神戸市葺合区生田町3丁目17
Phone (241) 8691

チョコレートの
モロゾフ株式会社
神戸市東灘区御影中町6丁目11番19号
Phone (851) 1594

コウベセンスで創る婦人靴
株式会社
TUKASA ツカサ
神戸市長田区細田町5丁目2ノ28
神戸化学センター5F Phone (691) 7739

株式会社 阿曽理容店
神戸営業所 神戸市葺合区浜辺通5ノ2ノ1
神戸商工貿易センタービル11F
Phone (251) 3010

株式会社 理容アソ
大阪市北区小松原27 富国生命ビル1F
Phone (331) 2214

オートクチュール
マーガレット
藤本ハルミ
神戸市生田区三宮町1丁目29
Phone (391) 1134

オートクチュール
アトリエ・ヨシコ
中島嘉子
トアロード・クロスビル Phone (321) 2268

コウベ ファッション ソサエティ
★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
＜神戸のファッション都市化をめざす＞
K. F. S. news 6
事務局／神戸市生田区元町通２丁目37村田ビル
デザインルームナカハラ内　ＴＥＬ 391—4768

２月のマンスリーサロンに

●コシノヒロコさん
底抜け遊んで クリアーな仕事を。

２月12日。２月のマンスリーサロンが県民会館902号室で午後６時30分より開かれ、最初に会員の浦野敏彦さん＜ブティック・メル・デザイナー＞が“空間とファッションとの関わり合い”をテーマにスピーチ。

また、ハワイから帰阪早々かけつけてのコシノヒロコさん＜デザイナー＞のスピーチは“クリエーターの生活”をテーマにした内容。

「ハワイでゴルフをやってきましたが猛スコアを出して、最高のショットを打って、いい気分で徹底して遊びたいんです。遊びの中にも努力がいるし一生懸命遊びたい。例えばパーティを友達と開くと、小さくても、会社をあげてのパーティでも、大のせにのせてやるんです。友達とも、会社の人とも遊びの中でつきあえば、上手くつきあえるし、私はパーティを自分自身のバロメーターにしています。

遊びにのりにのって、頭の中をカラッケツにして、翌日から３日間で100体のデザインをサッーとこなす。デザインにかかったときは頭の中でリラックスに考えたアイデアがそこで次々クリエートした形になってくるわけですよね。あまりよく遊ぶから、あんたいつ仕事してんの？（笑）っていわれます。

流行についていえば、流行の根本問題をとらえて社会の流れの中で何が望まれているかを把握することが何よりも大事。例えば高田賢三がブームをつくってきましたが、ブームでもうけるのはその周囲の人々で、本人は決してもうけてなんかいませんよね。だからブームをつくるクリエーターは宿命的に一歩先を行くから商売になりにくい。けれどそのブームを社会の流れのなかで上手く把握すれば、メーカーサイドの仕事になるわけだと思います。

ヒロコさんはなぜ大阪で住んで仕事をするのっていわれますけれど、私は東京で何年か仕事して大阪へもどってきました。仕事上、東京へいればいいし、東京よりパリの方がなおベターですがハンディキャップはあるけれど、自分のための仕事ができるんですよね

伝統の町京都とモダンな神戸が身近にあって、商売人としての大阪人であることはホンマものをつくると思うし真の努力はいるけれど、周りのものに犯されないで本質的な自分だけのものが創れるんです。だから毎年東京でコレクションを開くと、私だけは他の人達と違って、個性があるしユニークだっていわれる。ローカルでやる方がよりインターナショナルなんじゃないかしら。だから基礎さえ大事にして行けばいいんですよ。

神戸もファッション都市をめざすなら、よりローカルであることが大切なんじゃないですか」

と大きな瞳を輝やかして語るコシノさんだった。

山の幸の味

山海の滋味ゆたかに
季節を
盛りあげます。——

日本料理の店

婆娑羅
ばさら

電話(078)321—6363

神戸・三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F

北野町の坂道のほとりにある
目立たない小さなサロン神戸時代。
このサロンから
新しい時代の波をと思っています。

壁面を利用して神戸時代ギャルリーを
開催いたしております。皆様のご高覧を
お待ちいたしております。

SALON 神戸時代

神戸市生田区中山手通1丁目28
モンシャトーコトブキビル 1.F
TEL. 242—3567

★神戸の集いから

★政治家として学者として

二月七日（土）相楽園会館で、河上民雄氏（衆議院議員・東海大学教授）の、「政治と人間像」の出版記念会が開かれた。

故河上丈太郎氏の遺志を継ぐ学者・政治家としての河上氏の人柄がしのばれる政治論評集。

ケネディの魅力、石橋堪山の姿勢、あるいはキッシンジャーの隠密的離れ業の米中接近など、外交の芸についての妙味を世界状勢の流れの中で語り、日本の政治のあり方を流動的な姿勢で捕える政治家の〝眼〟は鋭い。

当日は、馬部貴司男氏の司会で進行し、十河巌、陳舜臣、京極純一、竹中郁、宮崎辰雄市長らのスピーチまた、高橋孟さんの似顔絵マンガ、松本尚蒔さんの地唄舞などが彩りをそえた。

「政治家で文章が書ける人は信用ができる」と、詩人の竹中郁氏は、外国の政治家をあげて激励。陳さんは「出席者に若い人が少いのがちょっと心配」と語るほど約三〇〇名近い多彩な顔ぶれの出席者だった。

（人間の科学社刊 ¥3、000）

河上さんを囲んで

河上民雄氏

●松本幸三さん

神戸初のリサイタル

二期会関西支部のテノール歌手として活躍する松本幸三さん（34）が、一月二十二日神戸文化中ホールで神戸初のリサイタルを開いた。毎日コンクール入賞、大阪文化祭賞、イタリア声楽コンコルソ金賞受賞といった輝やかしい経歴だが、神戸では山手女子高校・短大の先生として、母親コーラスの先生として、また神戸の酒徒番附の技能賞をとる酒徒としても人気もの。

今回は玲子夫人のピアノ演奏で唄った。中原中也の詩による矢野正文さんの作曲した新曲もあって、イタリア歌曲を中心に松本さんらしい独唱会だった。

リサイタルの後、山手のピザハウスに集っての打ちあげパーティでは、二期会の田原祥三、小惇平三さんや神戸大学の鈴木教授、佐藤廉、松本宏氏（実兄）やコーラスのお母さん方と約五〇名が集った。

女性が多い松本さんの打ち上げパーティ

★本年度「二紀展」開催

「第21回神戸二紀展」が二月中旬、兵庫県立近代美術館と「さんちか・ひろば」で開催され、十二日、「ひろば」で各賞の受賞者が決定した。同人の部では田村賞／渡辺照定、知事大賞／松下元夫、市長大賞／山田憲三、神戸新聞社大賞／井尻源一、作家賞／奥村隼人、元町画廊賞／渡辺、井尻、神戸青年会議所賞／位田和恵の各氏。

選考には美術評論家の赤根和生、増田洋、伊藤誠さんら、元町画廊の佐藤廉さん、画家の中西勝、小西保文、西村功、山本文彦、大西敏己さんらが当たり、同日午後六時から「清月荘」（山本通四）で出品者らの懇親会がもたれた。

'76神戸二紀展の会場で

きんぎょのひるね

詞・鹿島鳴秋

あかい　べべ着た
かわいい　きんぎょ
おめめをさませば
ごちそうするぞ

おかだ・じゅん

しずかなこはんの

詞・不詳

しずかなこはんの　森のかげから
もうおきちゃいかがと かっこうがなく
かっこう　かっこう　かっこう　かっこう　かっこう

おかだ・じゅん